

フォレストニュース

植林が地球を救う

平成26年(2014)9月10日

No. 81

発行 高津啓洋

パラグアイ緑地化 植樹ボランティア



でしたが9時ごろに2つの学校の生徒が先生に連れられ、会場に到着すると青年ボランティア隊のメンバーがその中に溶け込み、挨拶をはじめ、和やかな雰囲気となりました。

早速、皆で記念撮影をする時など、一斉にビバパラグアイの声が上がりました。周りで見っていた市の職員も学校の先生も後で聞いてみるととても驚き、感動したとのことでした。

9月5日、南米パラグアイ国の南に位置するエルナンドリア市で植樹が行われました。植樹キャンペーンの場所は主要道路の中間帯で、テントを張り、準備がしてありました。警察も動員され、交通整理をしてくれており、すでに市の広報責任者、環境問題の責任者、そして新聞社も来ていました。

私たちが到着した時はまだ、学校の生徒は来ておりません

市長が20分遅れ、式は9時20分からはじまり、まずは青年を代表し、倉員隊長が挨拶をしました。『私は、皆さんと一緒に今回、植樹を成す機会を得て、感謝して



います。ここにいる大人の方々は今の時代に責任を持っている方々ですが青年は未来を築く責任があります。責任ある人間となるために頑張ってください。』その場に合ったスピーチに会場からは拍手が出るほどでした。

その後、現地スタッフの中井重幸さんから今まで東部で行って来たボランティア隊の活動を中心に報告がありました。最後に市長が青年達に対する感謝と環境保全活動の重要性を話してくれました。

植樹用の穴が掘られた場所の一つに行き、市長と柴沼理事と一緒に植樹をし、5つのグループになったボランティア隊の隊員と学生が植樹を開始し、多人数での作業は効率よく植樹を行うことが出来、大成功の内に無事終了しました。(柴沼)



の指導により始めた「郷土(ふるさと)の森」のVTRが上映されました。企業の先陣を切って地球環境保全に着手された事に敬意をはらいました。

東京ドーム220個分有るといふ広大な構内を、広報室の方から説明を受けながら専用バスで回り、世界最大クラス・最高レベルの設備の圧延工場1,300mの内300mを見学、参加者は初めて見る一つ一つに感動と感嘆の連続でした。

②イオンの見学 そののち、1年前にオープンした、イオン幕張店に移動し、一千万本の植樹達成の碑の前に集合し、植樹した木の状況等を視察しました。

9・9新日鉄君津製鉄所見学

宮脇昭博士の指導により植樹し、見事に成長している2ヶ所の見学会を朝の雨もやみ青空が出て、絶好の日和の下感動のうちに終える事が出来ました。(報告:大滝)

①新日鉄君津製鐵所(1965操業)

説明会場では、大型スクリーンで歓迎してくれました。韓国語、英語、スペイン語等8ヶ語の中から日本語によるVTRで会社全体の説明が有り、続いて宮脇昭博士

